大阪市教

2024年２月１日
VOL. 610

発行　大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700　FAX 6910-7990

大阪市ＤＸ戦略、新・市政改革プラン

市対連　生活に密着した対策必要

幼稚園民営化

大阪市は「新・市政改革プラン」（骨子案）を取りまとめ、パブリックコメントを経て3月中に市長が確定するとしています。

「新プラン」取組方針1官民連携の推進4幼稚園の対応方針で、「民営化や休廃園に向けた検討を進める」としました。また『区政がめざす姿（令和5～8年度）』では、「令和6年度から小学生を対象とした放課後学習塾の全区実施」を掲げています（23年度から「大阪市習い事・塾代助成事業」として小学5年生からに対象拡大）。

区レベルで民営化・職員削減

市対連は1月26日、「大阪市ＤＸ戦略、新・市政改革プラン」で市民生活は？」学習＆要求持ちより集会を行いました。

奈良女子大学の中山徹教授は、2012年からの数次の「プラン」で行政サービスのコスト削減が行われてきたことを指摘。

20年の「プラン3・0」は「歳出の削減や歳入の確保、市債残高の削減、職員数の削減、外郭団体の見直しなど、一定の成果をあげ」てきたとしています。

ただし広域行政（大型開発）は「改革」の対象外であり、「都構想」（府市統合）が目指されてきました。

中山教授は、「市政改革を進めるのであれば、大阪市全体の業務を対象とした計画にすべきである。このままだと区レベルで民営化、統廃合、職員の削減を進め、財源を浮かしても、市政改革プランの対象に入っていない万博、カジノで膨大な無駄が発生する。その結果、財政が好転してきたと市は説明しているが今後悪化する可能性が高い。ICT活用・DX推進（デジタル）で市民の利便性を掲げ、官民連携で民間参入・利益確保を進める。経済成長は万博、カジノ、大型開発。これからは生活に関連した分野で雇用が多く発生。社会保障、教育、商店街、生活関連産業、中小企業等。区レベルの生活に密着した経済対策が欠落すると経済成長は進まず『未来につなぐ市政改革』にならない」と強調しました。

小・中、高統廃合強行

子どもの心　守られているのか

生野区学校統廃合による子どのたちの教育環境とまちづくりを考えるつどいが1月27日に開かれました。25年募集停止を教育委員会が決定した生野工業高校の教員が学校の現状、生野区学校統廃合計画に反対する懇談会を続けている大阪市教宮城委員長が大阪市の子どもたちの困難な状況を報告しました。

施設一体型小中一貫校に子どもが通う保護者は、「複数の学校の子どもが一緒になり落ちつかない状況が続いている。実験のように学校を減らし手厚い教育、少人数学級実現のチャンスなのに真逆のことをしている。子どもたちの心が守られていないのではないか」と話しました。

見守り隊の人から成長の節で希望を語ってきた小学校卒業式が行われず心配、6年生の成長は大丈夫かの声もありました。

高校3年生54人に「指定校求人数」446件（551人）の生野工業高校。ものづくりの生野に必要な学校を守ろうとの声が上がりました。

能登半島地震で避難所（地域の学校）の充実が求められているのに「跡地民間活用」で機能していないとの批判の声が、住民や連合町会長から上がりました。

少人数学級を政令市で唯一行わない大阪市で不登校が増えています。少人数の学級・学校を守るため、万博にどんどんお金を使う異常な体制に怒ろうとの呼びかけもありました。

たんぽぽだより　２月

小中ギャップという言葉が出てきて、小学校と中学校をつなぐ小中連携の取り組みが進められてきました。今は、幼（保）小ギャップという言葉が出てくるようになりました。小学校という生活リズムやルールがある中、特別支援が必要な子どもが増えている現状で、新1年生のクラスがしんどくなってしまうことがあります。そこで幼保小連携として、区から支援員や有償ボランティアを派遣する取り組みが進められつつあります。1年間同じ人が毎日支援に入ることで、なかなか教室に入れなかった子どもが教室でみんなと学べるようになりました。しかし、小学校教師としての知識や経験がない方が派遣されてきたり、日々の情報共有や意思疎通が必要になったりと、課題もたくさんあります。やはり小学校教師を増やして、きちんとした支援を行き届けられるようにしていきたいです。

ガーベラだより

教員採用選考　現職講師の合格増を

大阪市教育委員会HP「令和6年度大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テスト」の「結果概要・特別選考結果表」には、選考種別ごとの選考結果が掲載されています。

この表から①「大阪市学校園現職講師特例の合格者」と②「すべての合格者」を比較すると、合格者全体に占める大阪市で働く「現職講師」受験生の合格者の割合がわかります。

幼稚園では①5人、②11人で45・5%、幼稚園・小学校共通では①3人、②12人で25%、小学校では①154人、②411人で37・5%、中学校では①98人、②229人で42・8%、養護教諭（小・中共通）では、①5人、②12人で41・7%、栄養教諭①6人、②9人で66・7%、全ての校種を合計すると①272人、②686人で39・7%です。

すべての校種で、経験のある現職講師の採用が合格者全体の約4割に抑えられている現状がよくわかります。大阪市教は、さらに多くの現職講師を採用するように要求をしています。

災害避難できない　夢洲万博は中止

「アカンやろ！夢洲万博～傷の浅いうちに勇気ある撤退を～」が1月21日、大阪革新懇主催で行われ、藤永延代さんと元大阪日日新聞記者の木下功さんがパネリストとして発言しました。

能登半島地震で海底断層が注目されましたが、大阪湾にも断層があり、夢洲の液状化や津波も想定していないことは考えられません。避難ルートは夢咲トンネル（地下鉄）、夢舞大橋2本しかなく、来場者見込み1日20万人の避難計画はまだ明らかではありません。また、PCBやダイオキシンの処分場の上につくられた会場に、子どもたちを「招待」してはいけないと強調されました。

日本国際博覧会協会は公益社団法人で情報開示請求ができず費用上振れ、市民負担増の検証ができない（オリンピックと同じ）問題点も指摘されました。

おつかレインボー〈東南〉

東南支部・青年部第9回「おつかレインボー」を1月19日に行いました。

今回は「参観で使える合唱・群読」をテーマに先輩教員2人の講演を聞きました。

合唱では「君をのせて」などの合唱に合わせての手話にチャレンジ。覚えるのに必死で、参加者は夢中になって取り組んでいました。

群読では、谷川俊太郎の詩をパートごとにずらしての群読するなど、いろいろな指導方法を教えてもらえました。

参加者から「コロナで音読もできなかったけど、声を出す大切さを再確認できた」などの感想が出されました。

今年度もあとわずかです。最後まで笑顔で乗り切っていきましょう。（Y）

文化のつどい〈城北〉

「第37回文化のつどい」を1月13日、4年ぶりにをうぇるほぅるで行いました。

文化行事を大先輩の津幡さんご夫妻・室井さんご夫妻・松百幸子さんが快く引き受けてくださいました。

フルート演奏・大型絵本「ちいちゃんのかげおくり」の読み聞かせ・体ほぐし体操・みんなで歌声と盛り沢山。辻さんの消しゴムはんこ作り講習もあり、楽しいひとときでした。

分会交流の発言では現場の状況や所属団体からの報告があり、共感や励ましの声。現場のしんどさや困難な状況を実感したという先輩からの感想もありました。

交流して元気になれるよう、細くても長く取り組みを続けていくことが必要なことだと思いました。（N）